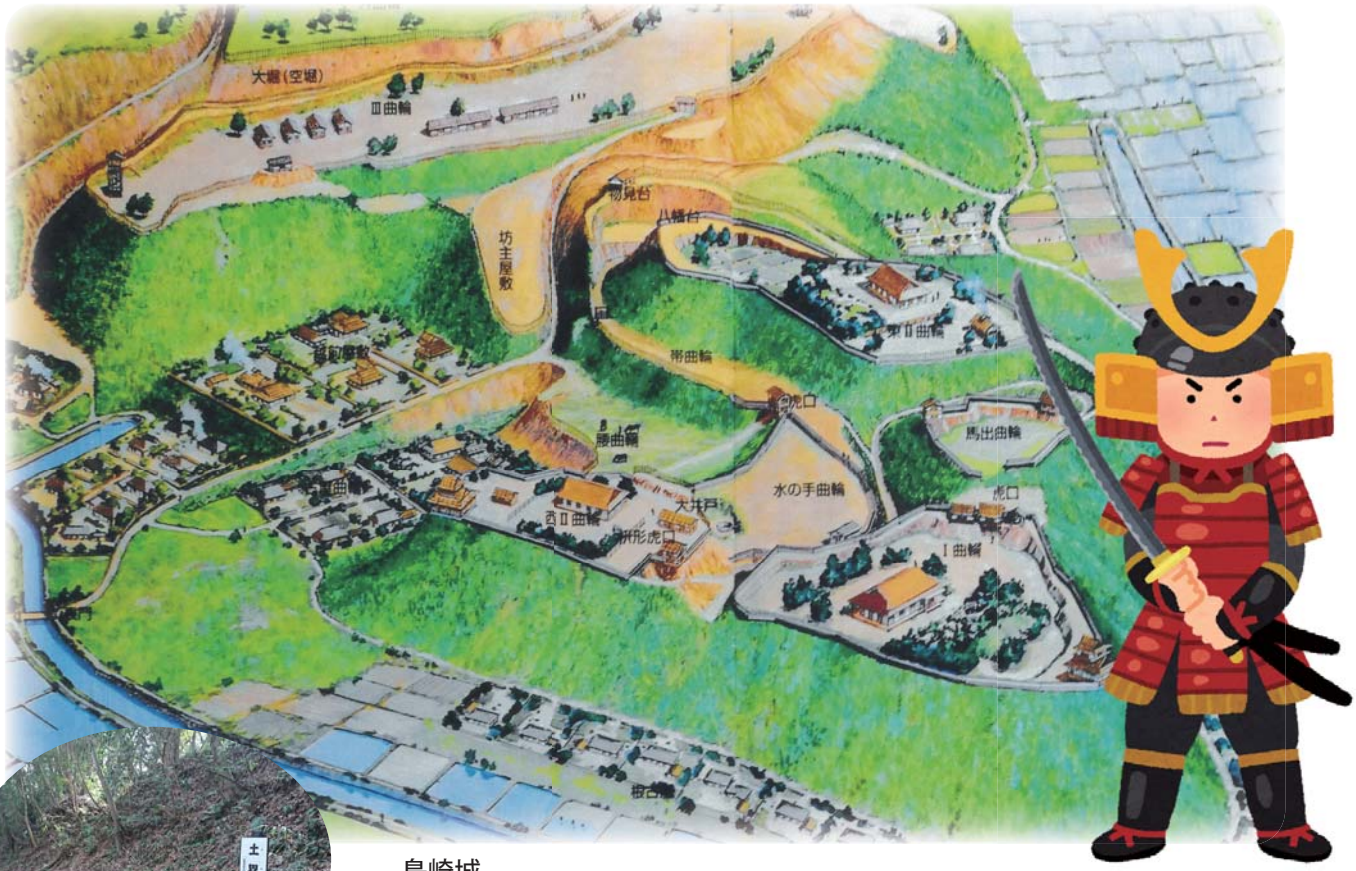
特集 潮来の歴史資産と島崎城跡



時代考証・間宮正光／イラスト・野上隼夫

島崎城跡の土塁（潮来市島須）

島崎城

15世紀前半、島崎成幹が築城した城。台地の先端に3つの曲輪（くるわ）が連なり、一と二の曲輪の間に馬出があり、中間に立派な土塁があるのが特徴で、中世の城郭遺構がとてもよく残っています。城跡は緑地環境保全地域に指定されています。ゴミ等は持ち帰り、安全に配慮して見学しましょう。

島崎氏は鎌倉時代から戦国時代にかけて、この地方を治めた豪族で、潮来市島須にある、島崎城跡は、鹿行地方最大規模を誇る城郭跡（城跡）です。全体的に保存状態が良好で、歴史学、地理学、民俗学と多方面にわたって注目されています。他にも牛堀地区には、いくつかの城跡があり、戦国時代のころのこの地域の様子を知る、貴重な歴史資産となっています。

潮来市（旧牛堀町）では1986年以来、島崎城をはじめ近隣の大台城跡（現牛堀中学校）、西出城跡など大規模な発掘調査を行いました。現在は一般公開できる状態に向けて「島崎城跡を守る会（山口晃男会長）が中心となって整備や清掃活動を進めています。

島崎氏

島崎氏は大掾（だいじょう）氏の流れをくむ豪族で戦国時代の武将。1522年から1584年までに近隣の長山氏、麻生氏を攻め滅ぼし、鹿島氏、玉造氏を攻め、南方三十三館と称された鹿行地方の豪族のトップとなり、隆盛を誇りました。しかし1591年、島崎安定など南方三十三館の城主たちは佐竹氏のいる常陸太田に呼び出され、全員が謀殺され、島崎氏は滅亡しました。

島崎城跡をテーマに文化講演会を開催

間宮正光先生（日本考古学協会会員）が講演

3月3日（日）、潮来公民館において平成30年度潮来市文化講演会が開催され、「考古学からみた島崎氏と城郭」をテーマに日本考古学協会会員の間宮正光先生による講演と原市長らが出席してパネルディスカッションが行われました。

基調講演として間宮先生から、島崎城跡の発掘調査により判明した島崎城の全容や島崎氏が生きた時代考証について詳しく解説がありました。

「島崎城の出土品の量や質から島崎氏が大変力のある豪族であり、居城は鹿行地方最大級の城であったことが分かります。

霞ヶ浦や北浦に挟まれた半島状の地形が外敵から守り、水上交通を利用した人や物資の流れを作って富を築いたと考えられます。島崎城や近隣の城跡は戦国を生き抜いてきた潮来の祖先からの贈り物、大事にしてほしい」と語りました。

第二部のパネルディスカッションでは、原市長、島崎城跡を守る会の山口晃男会長、郷土史研究会の谷玄明会長がパネリストを務めました。

「地元の歴史がまだまだ知られていないことが課題。周知を図っていくと同時に、看板を設置したり、駐車場整備、伐採の予算も計上しており、3年後位には観光名所にしていきたい」（原市長）

「ボランティアメンバーで整備をすすめ、近い将来は見学会や歩く会を催したい。もっと島崎城や長山城が戦国の城として知られるように努力していく」（山口会長）

「潮来には城跡をはじめ、河岸跡もあります。昔の史跡を観光客に案内できるような仕組みがあるとよいと思う」（谷会長）

「地元の人にまず歴史や史跡を知ってもらい、元気なシニア世代がボランティアでサポートや観光ガイドをして活性化していくことが望ましい」（間宮先生）

来場した200名を超える参加者は熱心に聞き入っていました。

活動中！島崎城跡を守る会

戦国時代の潮来を知る貴重な歴史資産である島崎城跡を保全するため、地元の有志を中心に約100名がボランティア活動を行っています。

城跡に生い茂った草木の伐採や清掃活動、島崎氏にゆかりのある大子町の頃藤（ころふじ）城や県内の城郭の見学、関連資料の展示や情報発信など年間を通じて活発な活動をしています。

島崎城跡で一緒に活動してみませんか！
【お問合せ】島崎城跡を守る会代表　山口晃男さん
☎64－5765
gooブログ「島崎城跡を守る会」で情報発信中

島崎城のむかしばなし

お投げの松

四百年も昔、牛堀がいくつもの村に分かれていた頃、島崎村の山の上にお城があった。そこは前に夜越川、後ろには山々が連なった自然の要塞で、それはそれは立派な山城であった。殿様の名前は島崎左衛門尉（さえもんのすけ）、桓武平氏の流れをくむ立派な武将で、たいそう領民から慕われていた名君だった。

よく晴れた日のこと。殿様は家来を連れてお堀の外へ田んぼの様子を見に出かけた。全くえらい殿様で百姓に混じって草取りまでしていたと言う。

そんな時、綺麗な白い蛇を見つけたお殿様はもっと近くで見ようと思って田んぼのあぜ道へ入ろうとした。すると一人の百姓が走り寄ってきて「そっちへ行くのは危ねぇだ。その蛇は神様の化身だ」と殿様を止めた。

白い蛇は諦めて殿様が帰ろうとしたとき、沼地でうっかり足を取られてしまった殿様は足元に蛇の群れがうようよと気味悪くのた打ち回っているのが見えてびっくりした。

やっとのことでぬかるみから抜け出した殿様が帰ろうとしたその時、突然家来に近づいてきた白い蛇があった。とっさに家来は棒でつついて蛇を殺してしまった。その家来は二日後に訳の分からない熱にうなされ苦しみ悶えて死んでしまったんだそうだ。

１５９１年とうとうこの島崎にも豪族佐竹氏の兵が攻めてきた。この戦いで島崎氏は追い詰められ、最強を誇った島崎城に火の手が上がり、次々と燃え落ちていった。

それを見ながら殿様は、なぜか家来の殺した白い蛇を思い出し、ひどく後悔した。そこで蛇を殺した場所の辺りめがけて、天守から一番殿様が大切にしていた立派な盆栽の松を投げ落とした。

その後、殿様は城と一緒に滅んだのだが、その盆栽の松はしっかり根付き、大きな松に成長した。しかし、誰もこの松を切ろうとする者もいなかった。ところが土地改良が行われ、松の周りが乾田になってしまうと、今まで元気だったこの松もとうとう枯れてしまった。地元の人たちが枯れた松を切ってみると、まるで蛇が住んでいたかのように、大きなうろが出来ていたそうだ。

今でも白い蛇は神様の化身だから、金輪際殺してはならないとこの地方では言い伝えられている。

現在の「お投げの松」

「お投げの松」をインターネット放送で聞いてみよう！

朗読　佐藤 彩希
（潮来市地域おこし協力隊）

【視聴方法】潮来市公式Youtubeで「**お投げの松**」と入力して検索

詳細はこちら

潮来市内の歴史資産例

長勝寺の銅鐘（潮来地区）

鎌倉時代に北条高時が寄進した銅鐘には「客船夜泊常陸蘇城（かくせんやはくひたちのそじょう）」と、昼夜問わず船が行きかい、にぎわっていた潮来の様子を記した銘文があり、国指定の文化財となっています。

大生の思井戸（大生地区）

大生神社の御手洗池として使われていたと伝えられる「思井戸」は今も砂地からこんこんと伏流水が湧き出ています。昔はこの近隣には七つの井戸があり、水の豊かな地域であったことを物語っています。

大生古墳群（大生地区）

大生原台地には大生神社を中心として、約110基からなる古墳群が存在し、県下でも最大の規模を誇る古墳群となっています。鹿島神宮と密接な関係のあったオフ氏の一族が葬られているとみられています。